

### < 目 次 >

1 西尾張ブロック総会・災害対応体験ゲームを終えて	代表	伊藤 善之
2 パッククッキングと炊き出し訓練に参加して	一宮支部	石垣 辰夫
3 こどもワークショップに参加して	一宮支部	玉腰 一義
4 連載防災コラム 第1回「伝える」「伝わる」	東尾張ブロック	加藤千恵子
5 第2回防災人材交流セミナーに参加して	本部広報部長	藤井 芳宏
6 第3回防災リーダーフォローアップ講座開催	本部広報部長	藤井 芳宏
7 平成24年度 犬山防災訓練について	犬山支部	高木 優
8 防災ゲーム「シャッフル」ゲームに参加して	扶桑支部	河村 治生
9 お知らせ・掲示板		

今回は 福和教授の「防災よもやま話」は お休みです。

## 1 西尾張ブロック総会ならびに災害対応体験ゲームを終えて 代表 伊藤善之

3月17日扶桑町中央公民館において、平成24年度西尾張ブロック総会が44名の会員出席（委任80名）のもと開催されました。来賓として、扶桑町総務課長 藤川優孝氏をお招きしてご挨拶をいただきました。

議事においては、会則改正や25年度事業計画・予算案にご質問やご意見がありました。一部の修正を加えて原案が承認されました。役員には新代表に江南支部の尾関博氏、研修部長に一宮支部の玉腰一義氏、会計監査に犬山支部の伊藤保和氏が新任として選ばれ、後の役は留任となりました。



総会后、尾関博氏の講師のもとで、災害対応体験ゲームが、35名ほど参加して行われました。

初めて実施する研修で、次の8グループに分かれて時々刻々と与えられる情報に対応するものです。

「小学校」「警察署」「消防署」「自衛隊」「行政」「病院」  
「市民（一家族）」「マスコミ」



1時間～3時間おきに発生する情報に右往左往するばかりで、何をどのように処理をしてよいのかとまどうばかりでした。実際の災害ではこのような情報にあふれてうまくいかない場面が多いのではないかと、思う次第で貴重な体験をさせていただきました。

4年間代表を務めてまいりましたが、行き届かない面が多々あったと思います。皆様のご支援後協力に厚く感謝を申し上げます。

## 2 パッククッキングと炊き出し訓練に参加して

一宮支部 石垣辰夫

リーダー会のメンバーを含む尾西防災ボランティアサークルの会は、従来の炊き出し訓練と災害時に活用できるパッククッキング（家庭版真空調理）を追加して実施することになりました。

平成25年2月3日（日）午前9時から一宮市東加賀野井、木曾川左岸河川敷の富田山公園バーベキュー場（市営）にて、炊き出し訓練を行いました。例年ハイゼックスと豚汁のみでしたが、今回はパッククッキングの「野菜炊き込みご飯」と「ハイゼックス」「豚汁」を用意しました。材料仕入れは、前日役員がスーパー等で準備、野菜類は会員からの寄付分を使用しました。

当日オガライトを焚き大鍋で湯を沸かし始め、ハイゼックスにはお米と梅干のみ、パッククッキングの袋には野菜炊き込み材料を入れ醤油も少し入れて縛る作業等を全員で行いました。湯が沸騰した頃



パッククッキング袋に食材入れ作業



豚汁・野菜炊き込みご飯の完成品

に鍋の中へ袋を投入して30分煮沸後10分蒸らし、出来上がった災害対応食を昼食として試食しました。野菜炊き込みご飯の味は、ますますでした。（会員・一般36名参加）

反省点はパッククッキング5袋程が袋の中に湯が入り込んでしまい廃棄処分としたことです。この件について、原因は袋の空気抜きと上部の縛り方が不十分によるものと思われます。次回の機会には、この点をしっかり注意したいと思います。

試食後、バーベキュー場の隣にある尾西パークゴルフ場、公認2コース・18ホール・パー66（市営料金無料）1組4人ずつで各ホールを回りました。

天候も春の陽気で、パッククッキングの調理方法を学び、パークゴルフにも挑戦し、楽しい炊き出し訓練となりました。午後1時30分終了し解散しました。

## 3 こどもワークショップに参加して

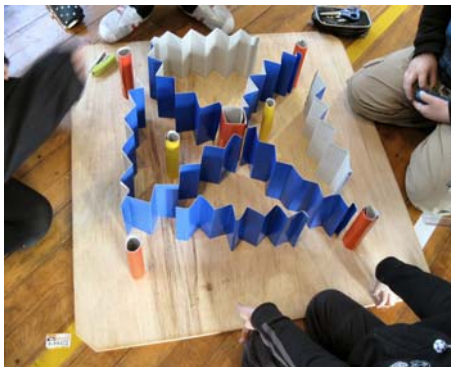
一宮支部 玉腰一義

一宮支部では2月6日愛知建築士会一宮支部と協力して市立浅井南小学校にて5年生を対象に「こどもワークショップ」を開催し地震に関する学習をしました。

当日説明中に震度2の地震が発生し、体育館がゆらゆらと揺れ、説明にも熱がはいりました。対象者は児童10グループ、PTA2グループ。各グループに建築士や当会員が支援。内容は用意された紙（15cm×40cmの厚紙）、ホッチキス、はさみで柱、壁を作成。その上にアクリル板を乗せ、さらに児童が何人乗って耐えられるかを競いました。

児童が何人乗れるか、乗ったグループの協力度合い等も審査対象になり、最低でも7人で最高は13人が乗れました。グループの団結力や壊れる時のスリル等から大変盛り上がりました。校長先生からも地震や校舎、家屋の耐震、家具固定の話がありました。

各教室では児童一人ひとりがワークショップについて感じた事を記入して主催者に渡されました。当会では、パネルの展示や一宮市の支援制度パンフを配布して家具固定の必要性を訴えました。



紙の工作が終了したところ



児童が乗っているところ

#### 4 連載防災コラム 第1回「伝える」と「伝わる」 東尾張ブロック 加藤千恵子

新年あけて早3ヶ月が経ちます。 本年も元気に活動しましょう。10年以上防災を学んできましたので、その経験を生かしたコラムを連載することにいたしました。大学が文系ではありませんので、巧い表現ができないかとは思いますが、読んでいただければ幸いです。

第1回目は伝えることの大切さを書きます。皆さんも地域で防災のことを伝えて、その難しさを感じられていることと思います。

人に防災を伝えるにはまず自身が学ばねばなりません、学んだだけでは伝わらないことが多いように思います。伝えるとは言うまでもなく、体を使って作業をすることだけではないからです。たとえば「非常持ち出し品ゲーム」を例にとります。選んだ品物の重さをリュックに入れた水で体感するだけなら、それは作業でしょう。このゲームでは、災害の種類や季節や地域、参加者の年齢など様々な条件で話す内容が変わります。

参加者の想像力や五感を十分に引き出す努力を惜しめばそれは中途半端な伝達に終わります。

相手に伝えることのむずかしさはここにあります。こちらが伝えたつもりでも伝わったかどうかを常に考え工夫をして、自分の言葉で表現してこそ目的を達することができるのです。

このように考えると、防災を話すこともその人の人生やポリシー、目的などをちゃんと持っていなければ相手には伝わっていきそうにありません。

40年も前、高校に教育実習に行きました。最後の日にクラスの代表に「先生の言葉のひとつひとつは決して忘れません」と身に余る言葉をもらいました。

21歳の小娘だった私ですが、実習中は決まりきった授業ではなく、つたない経験や思いを入れた授業やクラス会にしたことが、生徒に伝わったのだと思います。

中学・高校では毎年弁論大会で入賞していました。この頃から いえもっと幼い頃から自分の思いを伝えることの大切さと手ごたえを感じる人生を歩んできたように思います。



それは決して「主張」ではなく「伝達」でもなく まさに「伝える」ことでした。

還暦も過ぎ残り少なくなった人生ですが、これからも大切なことを大切な人たちにきちんと伝えることができる努力をし続けたいと思っています。

あとがき

お読みいただいた感想や、ご意見などを頂戴できれば、次回の APLA 通信に掲載させていただきます。ただしお叱りはご勘弁を。

あて先 愛知郡東郷町白鳥 1-19-12  
Tel & FAX 0561-38-3302  
E-mail [nxbnx621@yahoo.co.jp](mailto:nxbnx621@yahoo.co.jp)

## 5 第2回防災人材交流セミナーに参加して

本部広報部長 藤井芳宏

産学官民連携の第2回防災人材セミナー（人材育成事業シンポジウム）が11月24日（土）名古屋大学豊田講堂において開催され、名古屋大学減災連携センター長福和伸夫教授、ならびに愛知県防災局長小林壯行氏が開会にあたって挨拶をされた。

### 基調講演 宮城県南三陸町歌津中学校 教諭 佐藤公治氏

『地域を愛し、地域に根ざして生き生きと活躍する生徒の育成』～「志教育の」の「はたす」活動を中心に捉えて～

歌津中学校では、生徒及び職員の死者、行方不明者は0名で被害は少なかった。（在籍生徒178名）はじめに津波の様子を映像で説明された。

防災教育とは危機管理教育である。当校の防災教育の目的は、将来的な防災に関する力を向上させるものである。



#### 「津災」しんさい＝津波による災害

被災直後

- ・ 消防、警察、町役場は指揮命令系統が分断された。
- ・ 津災当日の晩には、塩おにぎりが届けられた。（農家が備蓄米を放出、発電機も常備）
- ・ 居合わせたもの同士が協力するしかない。（リーダー集団が自然と形成された。）
- ・ 津災後3日日位から、自衛隊やボランティア等の組織的な支援が入るようになった。（食料等の救援物資が届く。）ここで見通しがついた。

生徒対象のアンケートの結果は（一部抜粋）

- |                   |                                    |
|-------------------|------------------------------------|
| ①このまちに住みたいと思いますか？ | 83.4%が住みたい                         |
| ②このまちが好きですか？      | 92.3%が好きです                         |
| ③このまちの良くない所は？     | 津波が来る事 68.4%                       |
| ④このまちの未来必要だと思うもの  | 防災の治から 47.4%                       |
| ⑤このまちのためにしたいと思うこと | 誰にでも明るいあいさつ 63.9%                  |
|                   | 人に優しく接する 33.8% 防災のためにできる事をする 27.8% |

この後学校の再開時の課題として、職員の声に

- ・千年に一度と言われるような、歴史的な大災害に関する記録を残したい。
- ・生徒や地域の方々に元気になってもらいたい。地域の方々に、復興に向けた活力をもってもらいたい。
- ・生徒たちの心のケア・登下校時の安全確保・生活支援（食事、制服や学用品等、衛生面の支援）
- ・学習支援（1ヶ月間の授業の遅れの解消）・傷病発生時の対応・津波発生時の安否確認の方法など歌津中が行った災害時の対応を4に分けて行った。

**津災記録部** 文集、写真、VTRによって、生徒や教師、保護者や地域の方々の心の動きを記録すると共に、合わせて津災の都市の歌津中学校の教育活動の記録を行いまとめた。  
他の地域の方々や後世に役立てて頂きたい。

**教育相談部** 教育相談的手法を用いて、生徒個々の心のケアに関する事を行う（心と体のチェックカード）

**生徒支援部** 生徒の状況を的確に把握し、必要な支援を管理できるのは、学校だけであるのでその支援・救援物資の要請・届いた物の仕分・分配をはじめとする生活支援や学習の支援などを主に行ってきた。

**地域貢献部** 地域住民・地域の幼稚園から高校・行政機関に働きかけて、夏祭りなどを開催し、参加した人達から「とても感動した」と云われた。

その中で生徒会長が自分の言葉で「生徒の心に春が来るように」と語ったのが印象的でした。歌津中少年防災クラブ（クラブ員は2年3年の希望者33名）が発足した。災害に強い町づくり・規律訓練を目指した。

#### 平成24年度の防災教育

- ・平成24年度の職員体制。津災記録部以外の3部制⇔生徒指導部、地域貢献部、教育相談部
- ・地域ぐるみで生徒を育てる防災教育。歌津中学校区防災教育協力者会議
- ・生徒の人間的な成長を目指す防災教育。みやぎの志教育、道徳の時間の充実  
数々の訓練 救命救急法・応急処置訓練・非常時の火炊き訓練・瓦礫撤去訓練・穴掘り訓練・炊き出し訓練・避難訓練・等多くの訓練を重ねてきました。
- ・先生の思いは、生徒に災害後の役割を意識させることによって、災害後まで生き残らなければいけないという自覚をもたせたい。
- ・すべては、命あってのこと。家族や大切な人々のために、生き残らないといけなさと考えさせる。
- ・また、災害後であっても、何とか生活できるように学習させることで、どの様な状況下であっても前を向かせたい。そういうことを普段から考えさせるような防災教育を行っていきたいと考えている。教師にとって最悪の状況を考えて防災教育を推進しましょう！と結ばれました。

#### 特別レクチャー 南海トラフ巨大地震の被害予想予測と対策

##### 【国・愛知県における被害予測と対策】

名古屋大学 減災連携研究センター長 福和伸夫教授

2012年8月29日の南海トラフ巨大地震被害予測公表内容については、



前年の3月11日の東日本大震災がおきたので、この影響を考慮して出したもの、全容が明らかになるのはこれからで、この中では32万人の被害予測だが、対応によって6万1千人に減らす事が可能である。

### 【南海トラフ巨大地震の新たな想定全体像】

名古屋大学 減災連携研究センター 鷲谷 威教授

南海トラフ巨大地震の学術的観点から解説する。南海トラフ巨大地震はプレート沈み込みによって起きる歪みの跳ね返りによっておき、また繰り返し起きる地震である。3.11前の想定は1707年の宝永地震クラスであったが、3.11が起きて、考えられる最大級を想定することに見直しされた。3.11の解析で断層のずれが海溝軸間で破壊した(3.11の高い津波の要因とされる)事が判明。「最大規模の地震」の意味とは、発生確率は限りなくゼロに近いが、可能性は否定できないので、備える必要はある。



### 【揺れについて】

名古屋大学 減災連携研究センター 護 雅史准教授

震度/地震動によって、どのように揺れるか?どこが強く揺れるか?を追跡しているが、固い地盤の揺れは早く伝わり、浅い部分で柔らかい部分は揺れが増幅されることが判る。名古屋市街について前回の2003年の震度予測と今回2012年の新しい震度予測を比較すると、震度7になった面積は10倍に、震度6強になった面積は5倍、震度6弱になった面積は3倍になっている。建物への影響で比べると、6強と6弱では、被害に大きな差がでる。強震断面モデルは、まだ精度の高いパラメータが確立されはいいない。また、免震・減震構造を持つビルの揺れ方についても研究途上にある。



### 【津波被害について】

名古屋大学 減災連携研究センター 川崎浩司准教授

普通の波の周期が数秒から10秒程度であるのに対し、津波の周期は5分~12時間の長周期を持つ。東日本大震災時では30分周期だった。満潮/干潮で実際の被害はかなり違って来るが、2mの津波の意味は:現時点の海面から2m盛り上がると云うことを示す。50cmの津波に人は耐えられません。車や船舶も流される。名古屋港の高潮堤防の高さ8mは:名古屋港基準(海拔との差は-1.4m)に対する8mであって、海拔に対しては5.6mの高さ。さらに、津波により港に大量の海水が流れ込んできたら、海面は盛り上がる。数字の意味についてしっかり理解してほしい。



### 【液状化現象】

名古屋大学 減災連携研究センター副センター長 野田利弘教授

関東地方は埋め立て地盤の脆弱性が目立つが、東北地方は津波により、調査できなかった部分のあった事を差し引いても液状化箇所は少ない。南海トラフ巨大地震想定の中の液状化現象による愛知県下の被害予測は2万3



千棟とされる(3.11の浦安で、20棟だったことからすると、これは飛躍的に大きな数字である)。愛知県下の被害予測が大きくなる要因は、濃尾平野は緩い(密度が小さい)地質次盤であることと地下水位の高い地盤であることによる。さらに、地勢からみて、過去に液状化し再液状化する恐れがある地盤、猿投山から養老山地にかけて傾斜しながら存在する「粘土と砂の互層地盤」、また、木曾三川による水資源の潤沢さと干拓による開墾も被害予測を大きくする要因となっている。海拔ゼロメートル地帯は、昭和32年で180km<sup>2</sup>、平成11年では274km<sup>2</sup>に拡大している。これは高度経済成長期における地下水揚水の影響を大きく受けた結果でもある。

### 【ライフラインについて】

名古屋大学 減災連携研究センター 北野哲司教授

ライフラインの早期復旧には、通常「線=管」で供給している設備がネットワーク化されている事が重要である。

水道：愛知県は県から市町村へ水を供給しているが、異なる水系の浄水場間をネットワーク化して危険分散ができています。名古屋市も水系が二つあり、危険分散から見れば有効といえる。



中部電力：外周を囲むような送電線の張り方、火力発電所(新潟にも持っている)、又水力発電所のバランスも良い。

東邦ガス：中部電力との間(知多⇄四日市)にネットワーク(海底線)を構築中で地盤の歪によって被害を受けにくいNS方式のダクタイル管・ポリエチレン管の敷設を進めている。

### 【津波火災・地震火災について】

名古屋大学 減災連携研究センター 廣井 悠准教授

東日本大震災での火災は、地震火災と津波火災の2種がある。地震火災の被害の1位は宮城県、第3位は東京都、大都市ほど地震火災に弱い。地震火災の怖さは、出火が同時多発することとあり、通常の消防能力では消しきれないため、地域の力では消火できる能力に限界があることを認識する事も大切である。

もう一方の津波火災は、海面上で瓦礫に火がついた火災のことである。海上で火が付いた瓦礫は津波の第2波、第3波によって海岸線に沿って打ち上げられ、高台に設けられた避難所付近まで、広範囲に火災を引き起こす。地震火災同様消火は難しい。津波火災はまだ注目され始めたばかりで、現時点の想定の中にこの津波火災は含まれていない。

### ミニシンポジウム 【地域防災力を如何高めるか～南海トラフ巨大地震に向けて】

各協力団体から、この一年の活動報告を聴き、今後の自分達の活動に活かしたい。

①あいち防災リーダー会 磯村美智子氏：東浦町の活動報告

②NPO法人 耐震化アドバイザー協議会副理事 有我高司氏：耐震化の啓発活動報告

③なごや防災ボラネット 岡田雅美氏：東海豪雨をきっかけに始まった活動報告

コメンテーター：宮城県立歌津中学校 佐藤公治氏、コーディネーター：レスキューストックヤード 栗田暢之氏ならびに上記の方々をパネラーとして招かれ、シンポジウムが行われた。

被災してみてわかった事として、住民1人1人の意識の問題が大きいとの指摘があった。

## 6 第3回あいち防災リーダーフォローアップ講座開催

本部広報部長 藤井芳宏

第3回あいち防災リーダーフォローアップ講座が、平成25年2月10日（日）10時～17時 名古屋工業大学御器所キャンパスにおいて、NPO法人あいち防災リーダー育成支援ネット主催で開催された。対象は、平成20年～24年あいち防災リーダー養成塾修了者並びに平成20年以降に市町主催の防災リーダー研修後にあいち防災リーダー会に入会された方たちで、約100名の参加でした。共催は愛知県、名古屋工業大学高度防災工学センター、あいち防災リーダー会でした。

目的は「いつ起きてもおかしくない南海トラフの巨大地震」の危機感も強まっている中、私達防災リーダーは、この機会にもう一度基本に戻り、災害を見直し、減災の知恵を学び、地域における防災意識や災害対応力の向上を図り、明日に備える資質を高めよう」というものでした。

太田理事長挨拶の後、来賓として、名古屋工業大学 前田教授・秀島教授 愛知県防災危機管理課 高柳幸央氏が紹介された。

### 基調講演： 名古屋工業大学高度防災センター長 張 鋒教授

#### 「液状化を知り、それに備える」

東日本大震災を振り返り、南海トラフの巨大地震にどう立ち向かうのか！

液状化が起きやすい地域は、河川によって運ばれた細かい砂でできた低地、かって川が流れていた場所あるいは埋立地等で、ほかに

1. 地表面から浅い場所に地下水がある
2. 砂粒が直径0.1～1.0mm程度の大きさに揃っている
3. 地震の振幅が大きく、継続時間が長いことなども液状化が起りやすい条件です。



液状化により起こる現象としては、基礎の支持力低下による沈下、傾斜、盛土の沈下・変形、地盤の永久変形による杭基礎の被害、地盤の永久変形による地中埋設構造物の被害などがあります。

1995年兵庫県南部地震で液状化により神戸港に甚大な被害が起こり、貨物の荷扱いが出来なくなり、その結果荷扱いが他の港に移ってしまって、神戸港が復興しても荷の扱い量は再び戻りませんでした。

その他、淀川堤防崩壊や1964年の新潟地震による空港ターミナル液状化・住宅の崩壊、十勝沖地震でのライフラインの破壊などが紹介された。

#### [液状化への対策]

グラベルドレーン工法（間隙水圧消散工法）は、地盤中に造成した砕石柱により過剰間隙水圧を早期に消散させ、液状化を防止する工法である。この工法は施工に伴う周辺地域地盤の変状が極めて小さいため既設構造物近傍での施工に適している。この工法では砕石を使用する代わりに瓦を砕いたものを使用する方法も紹介された。地下水が少なければ液状化は起きにくくなるので、排水促進による液状化の抑制効果は大きい。

石巻市の港湾施設ではアスファルト舗装下の地盤流失（深いところでは60cm）や引き波による液状化によってアスファルト舗装が断片化され宙に浮き海側へ運ばれた事例などが紹介された。



本震で液状化が起こり易い状態になっていると液状化は余震の震度が低くても起こる等興味深い講演でした。

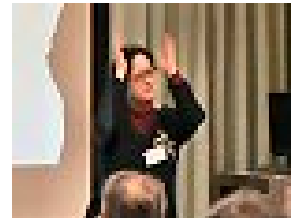
## ワークショップ 「地域防災力向上のための活動はどうすべきか」

コーディネーター NPO法人あいち防災リーダー育成支援ネット 太田貴代子理事長

### 地域の活動事例発表

知多ブロック美浜・南知多防災の会 山口暢子氏、山本比佐子氏

盛り沢山の啓発活動を実施され、女性の目線から見た、優しさを持って一般の人がとても参加しやすい雰囲気を作って参加モチベーションを高め、楽しんでやっていたらっしゃると感じました。(参考にさせて頂く事大でした)



### 地域防災をどう活性化するのか

#### 1) 現状把握

- ①地域での役割について、今回参加された多くの皆様は地域で何らかの役を持っておられた方が多かった。自治会・自主防災会・ボランティアのリーダーさんなど
- ②この一年間どんな活動をされたか？ やはり多いのは・防災訓練参加（炊き出し訓練・避難所訓練・AED救命救急訓練）他に地域のお祭りでの啓発活動（各種体験してもらう・災害写真展示・防災塗り絵・紙芝居等防災に関するアイテム）他にも、高齢の方の健康を促進する会を運営している（ウォーク）など

問題点を抽出し改善策のワークショップが行われ、以下発表されました。(まとめ)

#### 2) 問題点

- ・地域住民の防災に（温度差があるが）関する意識が低い
- ・防災リーダーの年齢層が高いので（緊急時活動できますか？）若い人材が必要である
- ・個人情報保護法で名簿作成が作り辛い（地域の要援護者・安否確認用）
- ・地域の慣習があり・長者が支配していて入り込めない
- ・防災会と名ばかりで活動していない
- ・地域でのコミュニケーションが少ないなどが指摘された

#### 3) 改善策

- ・楽しんで参加できる防災イベント開催（若い子育て中のご夫婦が参加できる）
- ・行政からも地域住民に情報を伝えて貰う（情報不足の解消）



発表



発表



太田理事長のまとめ



「おはしも」の寸劇

- ・子供の防災教育をしてお父さんお母さんに伝える、子供から大人に伝える防災教育（子育て中のお母さん・働き盛りのお父さんは忙しい）・地域の付き合いを大切にまずは挨拶から
- ・防災リーダーが変われば防災意識も変わる、力をつけて地域の仲間を増やす

今回印象に残ったのは決意表明でもありました「我々防災リーダーの平均年齢が高いので要援護者にならないように体を鍛えましょう！ 自助です。

最後に前田健一教授・秀島栄三教授から総合評価コメントがありました。  
前田教授からは

小学校4年の長男が発表会で伊勢湾台風の芝居をしました。筋書きはお父さんが帰って来られなくて母親と屋根を突き破って避難した。隣の子は亡くなってしまった。全学年に伝わるので影響は大きい。今後もこの様な事はやるべし、地域での行動目標が発表されましたが、目標は数値化し進めた方が良い。



秀島教授からは

人の意識を変えるのは難しい・低学年の子供の頭に入っているか？  
大学生は意識が低いので、中学生、高校生をターゲットにした方が良い、ブレークスルーをビジネスで使われる時は「進歩を拒んでいた壁を突き破り大きく一歩前進する事、現状を打破し大きく一歩前進する事」名案が出てきませんが、会社を通じて家族を呼ぶ（防災教室とか）効果がある、いろんな可能性を見出す、楽しいイベント開催、継続性を企画するなど各種補助金もあるのでうまく利用して下さい。



我々NPOのメンバーも今回は発表の時間を珍しくいただきました。それぞれの思いを感じている事を伝えました。

太田理事長より名工大教授の絶大なるご協力で会場をお借りし・フォローアップ講座を開く事が出来ましたと感謝の言葉があり閉会しました。

## 7 平成24年度 犬山市総合防災訓練について(報告)

犬山支部 高木 優

一昨年の23年度防災訓練と同様に、24年度防災訓練が平成24年9月23日に実施され、生憎の雨模様でしたが、自然災害は天候にまったく関係なく発生すると考えれば、降雨での訓練中止はあり得ないことでもあります。

24年度防災訓練も訓練会場を2会場に分散、第1会場は犬山市南部中学校グラウンドおよび体育館、第2会場は犬山南部公民館で実施され、「あいち防災リーダー会 犬山」は、これら2会場とも訓練に参加しました。以下に概要を報告させていただきます。

《被害想定》

- ・平成24年9月23日午前9時、南海トラフによるプレート型地震が発生

- ・ 犬山市では震度 6 弱を計測、市内各所で家屋の倒壊、人災の発生、多数の負傷者が出ている模様
  - ・ 道路は寸断、山間地域では崩落場所も発生
  - ・ 電機、ガス、上下水道、情報通信などライフラインに大きな被害が発生
- 犬山市では、このような被害状況(想定)を前提に、防災関係関連機関、関係地域住民の協力を得ながら各種訓練を実施しました

#### 《第 1 訓練会場での訓練内容》

- ・ 重量測定のための秤(はかり)x8 台を準備、参加住民(避難住民)が背負ってきた非常持出品袋の重量測定を実施(参加住民と一緒に重量測定)、また、非常持出品点検シートを配布、参加住民の非常持出品との比較チェックを家族会議で行うよう要請
- ・ 非常持出品重量体験コーナーを設置  
模擬非常持出品(2.5~15 kg x5 種)を準備、実際に背負って非常持出品の重さを体験してもらう
- ・ 家具の転倒防止設置例(愛知県防災局から借用)の展示、説明
- ・ 防災グッズ、非常持出品、備蓄品などのサンプル展示、説明
- ・ 愛知県および犬山市発行の防災・減災関連各種パンフレットの配布、説明

#### 《第 2 訓練会場での訓練内容》

- ・ 第 1 会場同様の展示品の縮小展示、説明
- ・ HUG(避難所運営ゲーム)訓練の実施  
会場は「避難所」指定を受けているため、会場をモデルに HUG を実施  
参加者は自主防災会長(町内会長)、町役員、一般市民(7 グループ x8 名 56 名)が参加

結果、雨模様のなか、住民参加がやや少なくなったきらいはありましたが、24 年度防災訓練も 23 年度防災訓練同様「市民参加」型の防災訓練ができたものと考えます。

## 8 防災カードゲーム「シャッフル」に参加して

扶桑支部 河村治生

昨年 12 月 15 日に開催された防災カードゲーム「シャッフル」の講習会に参加しました。子供さんを対象として人気の高い、従来のストローハウスが材料の入手難からできなくなり困っている現状から、次なるメニューとして期待されるものであり、担当役員さんの骨折り、大変ご苦労様でございます。

会場へは、Navi をたよりに向かいましたが、ルート選定が良くないのか、えらく時間がかかり不調な出だしでありましたが、講習は有意義におわることができひと安心でありました。予定のない課題対応型ゲームで、施設の安全性の確認できないなか、体育館に避難者を入れるかいないか。夜 7 時、気温 5 度 C、停電、ガス、水道ストップ中、町内会長としてどうするか？

結論は自明ではありますが、毅然かつソフトに NO ということを実際にいえるだろうかと考えさせられるひとこまでありました。私だったら、自己責任なら止むを得ないなどと情にながされる懸念がありそうです。

さて、本題のシャッフルですが、講師の説明を聞いてもさっぱり解らず、説明が悪いのか、歳を拾

った自分の理解力がないのか、その両方なのか、6歳からの子供からが対象と聞いてがっかりしてしまいました。ともかくも解らないまま参加者でゲームをやり始め、その都度解らない点を確認しながら進めることをかさねた結果、次第に要領がわかってきました。結構高度な大人にも駆け引きを楽しめるゲームとなっていると感じました。ただ、各テーマの順序を回答させるのは知識のない子供には回数を重ねる時間が必要であるので工夫がいるのではないかと。また、時間制約もあり勝者の判定基準までやれなかったのが残念ではあったが、それなりに楽しめると思う。この経験を活かして啓発活動の一助としてゆきたいと考えております。

## 8. お知らせ・掲示板

### 1. 平成25年度（第11回）あいち防災リーダー会定期総会ご案内

第11回の総会を下記の要綱で開催致します。代議員制ですが、一般会員もオブザーバーとして参加できますので多数のご出席をお待ち致します。

〔 準備の都合上事務局丸山までお申込みください  
TEL/FAX：0587-93-6403 Email：[maru.sun03apla@tg.commufa.jp](mailto:maru.sun03apla@tg.commufa.jp) 〕

日時：4月27日（土）午後1時30分～5時（1時受付開始）

場所：名古屋大学環境総合館 1階レクチャーホール

第1部 総会

第2部 活動事例発表会 知多ブロック・海部ブロック・三河ブロック

第3部 防災講話 名古屋大学地域減災連携センター&江戸川大学 隈本教授

### 2. 第4回防災リーダーフォローアップ講座

日時：6月9日（日）10時～17時

場所：名古屋工業大学御器所キャンパス 講堂2階

申込み：早川澄男（TEL/FAX 052-652-4102

Email：octopus9090sumio@yahoo.co.jp）

防災講話：名古屋工業大学前田教授

ハザードマップ事業展開：太田貴代子（予定）

ワークショップ：地域での事業展開をどう進めるか

### 3. あいち防災リーダー会一泊研修

日程：7月12日（金）・13日（土）

行き先：和歌山県広村稲むらの火の館・橋杭岩など

申込み：早川澄男（上記と同じ）

〃 = = = = = 〃  
〃 **APLA 帽子・ベスト購入できます!** 〃  
〃 <価格> 〃  
〃 帽子 : 1,780 円 (個人負担) 〃  
〃 名前入り (姓のみ) 〃  
〃 ベスト : 1,280 円 (半額ブロック負担) 〃  
〃 640 円 (個人負担) 〃  
〃 サイズ : M、L、LL、3L 指定 〃  
〃 <申込み先> 〃  
〃 三輪秀夫 〃  
〃 TEL/FAX : 0586-44-0824 〃  
〃 携帯 : 090-3853-6289 〃  
〃 Email : rfkmh769@ybb.ne.jp 〃  
〃 = = = = = 〃

## 編集後記

APL 通信25号は本部記事が多くなりました。養成講座の内容も役に立つお話になっていますので、是非お読みください。今回福和先生のよもやま話はお休みです。次回を楽しみにお待ちしております。

広報部